

メンバー募集中

枕崎の太鼓の伝統を守り、未来へ受け継いでいくために、「火の神乙女太鼓 爽」ではメンバーを募集します。初心者の方でも大歓迎です。太鼓に興味のある方、ぜひ一度見学にお越しください。
問合せ：090-2581-7354(平田)

指導者



平田 理子さん



桑原 瑛太さん
小学校6年生



萩原 李羽さん
中学校1年生



萩原 花吏さん
中学校3年生



平田 瑠菜さん
中学校1年生



竹内 楓さん
高校3年生

リーダー

火の神乙女太鼓 爽 メンバー紹介

「火の神乙女太鼓爽」の今

新チームとして全国大会へ出場するようになってから、メンバーの数は増え、多い時で15人のメンバーが在籍していました。しかし、卒業や進学などで再びメンバーは減っていき、現在は小学生1人、中学生3人、高校生1人の5人となりました。乙女太鼓のOBで枕崎火の神太鼓保存会に所属する平田理子さんが指導者として入り、実質6名で活動しています。

人数が減り、かつてのような大人数での演奏はできなくなりましたが、一人一人の磨き上げられた技術と6人の息がぴったりと合った時に奏でる迫力ある演奏は今も健在です。彼女たちは、年間約50回公演を行い、観る人を太鼓の世界へ引き込み、大きな感動を与えています。そして、全国大会での優勝を目指して、日々練習を重ねています。

ゆるぎない土台づくり

和太鼓は、一番底辺の土台に「基本」があり、その上に「技術」があります。さらにその上には「楽曲」があり、「一番上には「表現」があります。毎日の練習では基

送りました。佐渡の大自然の中に身を置き、自分と向き合いながら心体を鍛え、太鼓だけではなくさまざまな楽器を学び、佐渡に息づく豊かな芸能に触れ、鼓童としての礎を築きました。そして、研修生活終了後、1年間の準メンバーの期間を経て、2018年の4月から正式な鼓童のメンバーとなりました。枕崎はもちろんです。鹿兒島県出身者としても初の鼓童のメンバーです。現在は、1年間の3分の1を本拠地の佐渡島で過ごし、3分の1を日本全国で、そして残りの3分の1を海外で公演をして過ごしています。

2019「道」 鼓童ワン・アース・ツアー

10月18日、枕崎市市民会館で「鼓童ワン・アース・ツアー2019「道」」の公演が開催されました(関連12頁)。そこには、鼓童のメンバーとして演奏する平田(裕)さんの姿がありました。幼い頃に両親に連れられて見た憧れの鼓童の舞台。夢を叶え枕崎に帰ってきた平田(裕)さんに、満員の会場から大きな声援が送られました。

平田(裕)さんに「今、乙女太鼓のメンバーに伝えたいことは」と



「火の神乙女太鼓 爽」の今



10月18日 鼓童枕崎公演より

尋ねたところ、「とにかく後輩たちには、楽しんで太鼓を打ち続けてほしいですね。それが根本の部分ですから」と笑顔で話してくれました。

全国大会優勝、枕崎を盛り上げるために

鼓童公演の翌週、市民会館にはいつものように太鼓の音が響いていました。練習しているのは、乙女太鼓のメンバー。11月に行われる全国大会への切符をかけた県大会に向けて、必死に練習していました。乙女太鼓の先輩である平田(裕)さんの姿は、彼女たちの目にどう映ったのでしょうか。全国大会での優勝を目指して、そして、枕崎を盛り上げていくため、彼女たちはこれからも太鼓を打ち続けます。

第18回KKBふるさとCM大賞2019 「火の神乙女太鼓 爽」をテーマに努力賞を受賞



今回のCMは、枕崎の四季折々の風を表現した「風来」という曲にのせて、「火の神乙女太鼓 爽」をPRするCMとなっています。「火の神乙女太鼓 爽」のメンバーの活躍をご覧ください。

県内各市町村が30秒のふるさと自慢CMを競う「第18回KKBふるさとCM大賞2019」の審査会が10月19日、鹿兒島市のアミュ広場で開催されました。

今回は県内の32市町村から作品が出品され、本市は「火の神乙女太鼓 爽」を題材にした「私たちは「火の神乙女太鼓 爽」を出品し、努力賞(副賞として20本のスポット放送)を受賞しました。審査会は公開審査で行われ、当日は「火の神乙女太鼓 爽」のメンバーが舞台上で太鼓の演奏を行い、会場の注目を集めました。

審査会の様子は、11月24日、午後2時からKKB鹿兒島放送で放送予定です。



社会で通用する人材を育てる

乙女太鼓の練習では、太鼓を打つ技術だけではなく、礼節や思いやりの心、自分の意見・考えをしっかりと持つことなど、人として大切なことも一緒に学びます。良い演奏をするためには、人間性が豊でなければなりません。いわゆる「心・技・体」の「心」の部分です。それは、日頃から身に付けていないと、その場限りで演奏の中に現れるものではありません。そして何より、乙女太鼓を卒業して社会人になった時に、しっかりと社会で通用する人であってほしい。そういう想いで指導者も我が子のように厳しく、時には優しくメンバーに接して

「火の神乙女太鼓 爽」から夢の舞台へ

これまで乙女太鼓から200人以上のメンバーが卒業していき、太鼓で学んだことを生かし、それぞれの道で活躍しています。

「乙女太鼓は僕にとつての原点です。太鼓ばかりやってきた人生で、本気で打ち込み始めた時でした」と話すのは、乙女太鼓のOBで現在、太鼓芸能集団「鼓童」のメンバーとして活躍する平田裕貴さん。平田(裕)さんは、太鼓をしていた両親の影響で、物心ついた頃には太鼓をたたいていたと話します。18歳まで乙女太鼓のメンバーとして活動し、20歳の時に鼓童に入ります。鼓童に入ってから、新潟県の佐渡島にある研修施設で2年間、研修生として生活しました。テレビも携帯も電話もない環境で、毎朝早く起き、自分たちで野菜を育て、自炊をし、同じ研修生と共同生活を



平田 裕貴さん